

言語活動を充実させる森林環境教育の実践 ～聞き書きの手法を取り入れた農山村調査～

農業科 石井 克佳

文部科学省から2009年3月に新しい高等学校学習指導要領が公示され、各学校では新教育課程編成に取り組んでいる最中である。改訂の要点のひとつとして、生徒の言語活動の充実が加わった。森林環境教育の一環としてNPO法人共存の森ネットワークと連携し、環境科学の授業に「聞き書き」の手法を取り入れた実践について報告する。

キーワード：森林環境教育、学習指導要領、言語活動、SPP、連携

1. はじめに

文部科学省から2009年3月に新しい高等学校学習指導要領が公示され、各学校では新教育課程編成に取り組んでいる最中である。改訂の要点のひとつとして、生徒の言語活動の充実が加わった。これに関しては、「生徒の言語活動の充実（第1章第5款の5の(1)）」に次のように示されている。「今回の改訂においては、言語活動の充実を重視している。このため、配慮事項として、各教科・科目等の指導に当たっては、生徒の思考力・判断力・表現力等をはぐくむ観点から、基礎的・基本的な知識・技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語活動の充実が必要であることを示した。」では、各教科・科目における活動はどのように進めたらよいのか。その具体的イメージとして、地歴科では、「持続可能な社会への展望」を目指し「現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、歴史的観点から資料を活用して探求し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が強調し共存できる持続可能な社会の実現について展望させる」としている。また、総合的な学習の時間では、「問題の解決や探求活動の過程においては、他者と協同して問題を解決しようとする学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したりするなどの学習活動が行われるようにすること」としている。このように、新学習指導要領における言語活動は、学校や家庭・地域において様々な事象や人々と触れ合う中で自己理解や他者理解を深め、自らの体験を言語化し、他者と協同したり議論する中で言語による分析、表現、記録していく活動ととらえることができ、学習活動の根幹の一つとして位置づけられている。そこで、生物資源・環境科学系列の授業で行ってきた、調査活動に新たに「聞き書き」の

手法を取り入れた農山村調査を実施した。本稿は、2年間にわたる実践の報告である。

2. 経緯

(1)「森の“聞き書き甲子園”」について

「森の“聞き書き甲子園”」は2002(H.14)年に林野庁、文部科学省、(社)国土緑化推進機構が主催し、全国100名の高校生が、100名の名手・名人を取材しレポートとしてまとめる活動として始まった。現在は、この活動をNPO法人共存の森ネットワークが運営し、森の名手・名人に加えて、海・川の名人の取材も行っている。本校では第4回から毎年1～2名の生徒が参加している。

(2)本校における歴代の「森聞き」参加者

(「森の”聞き書き甲子園”」は略して「森聞き」と呼ばれている。)

- ・第4回(2005)参加生徒:北山瑞季 1年中お正月～羽作り職人 井立恵美子さんに聞く～森の名手・名人:井立恵美子氏 埼玉県鳩ヶ谷市
- ・第5回(2006)安藤 愛 若き与作 浅見和夫氏 埼玉県神川町 優秀作品賞受賞
- ・第6回(2007)植松恵美 漆はまるで人の顔 飛田祐造氏 茨城県大子町 島田香奈 自然と生きる原木椎茸 久保田勝氏 埼玉県入間市 優秀作品賞受賞
- ・第7回(2008)笹井将史 世の中に経木の良さを伝える 佐野榮一氏 埼玉県飯能市 横山太郎 高尾の森の人 峯尾春雄氏 東京都八王子市
- ・第8回(2009)中川沙羅葉 手業(てわざ)の生きる組子(くみこ)～木の村 ときがわの建具職人～ 畑一男氏 埼玉県ときがわ町

吉井萌恵 「海の白米」を獲る漁師。海・川の名人
岩崎晃次氏 神奈川県横須賀市 優秀作品賞受賞
※2009年度より、本校も授業に聞き書きを取り入
れた。

- ・第9回(2010)加藤かざし すべてが紙漉き 佐々木
清男氏 秋田県横手市 優秀作品賞受賞
田中穂南 わいの一本釣り ー生命あふれる海と歩
むー 坂口年一氏 兵庫県明石市 優秀作品賞受賞
※参加生徒2名そろっての受賞となった。

(3)共存の森ネットワークとの連携

NPO法人共存の森ネットワークは2007年12月に発足
した。主に下記の活動を行っている。

- ・「森の“聞き書き甲子園”」は前述のとおり、毎年
100人の高校生が、全国各地の「森の名手・名人」を
訪ね、一対一の対話をとおして、森とともに生きる知恵
や技術、考え方や生き方を「聞き書き」し、記録する活
動である。「森の聞き書き」に加えて、昨年からは「海
・川の名人」への聞き書きも行うようになった。本校生
徒も昨年からは、「森」と「海・川」の両方への聞き書き
に参加している。

- ・「なりわい創造塾」は、大学生や社会人を対象とし
た農村体験型の公開講座である。
- ・「共存の森」は、かつて“聞き書き”に参加した
OB、OGたちによる、全国各地での森作り活動であ
る。

このように、共存の森ネットワークは農山漁村で生き
る人々や暮らし、知恵や技術を学ぶことを中心に、持続
可能な社会形成を目指した活動を幅広い世代に対して行
っている。また、地域や学校との連携活動にも力を注い
ており、本校との連携が実現した。

(4)授業に聞き書きを取り入れた経緯

「森の“聞き書き甲子園”」では高校生がカメラとレコ
ーダーを手に、たった一人で山奥に住む名人を訪ねる。
年齢も住んでいる環境も生き立ちもまるで違う初対面の
相手にインタビューをする。このインタビューにはルー
ルがある。話し手のことばを録音し、その言葉の一字一
句を書き起こし、それをもとにレポートを作るのである。
これが「聞き書き」である。始めに夏休みに開かれる
合宿に参加し、手ほどきを受け、秋になると単独で名
人のもとへインタビューに出かける。その後自宅でレポ
ートを完成させる。活動の節目で、私はアドバイザーと
して生徒にまとめ方のアドバイスをする。すると、生徒
から「参加して良かった」「紹介してくれてありがとう」
「後輩にも勧めたい」「活動を続けたい」という言葉を
毎年聞いた。「そんなにいいのなら自分も見よう」

と思い、私自身も試しに夏休みの合宿に参加した。そこ
では、NPO法人のスタッフや、かつて聞き書きに参加
したOBやOGが総出で、何も知らない高校生たちを鍛え
ていた。私は「こんな授業、学校にはないな」「学校で
もできないだろうか」と思い、「NPO法人共存の森ネ
ットワーク」のスタッフに協力をお願いしてみた。すると、
「面白そうですね。いいですよ。」と快諾を頂き、
実現への一歩を踏み出したのである。

3. 方法

本校は、1994年に全国初の総合学科高校として改編
し、現在は4つの系列を中心に教育を進めている。2007
年度より、サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト
(SPP)を開始し、森林に関する環境教育プログラムの
研究を推進している。現在では全校的にSPPを展開し、
各系列や教科通じて大学・研究機関・企業・NPO法人
との連携を進めている。このうち、森林環境教育の一環
としてNPO法人共存の森ネットワークとの連携につい
て報告する。

この活動のねらいとしては、以下の点が挙げられる。

- ①NPO法人と連携し聞き書きのノウハウを身につける。
- ②調査活動にじっくり取り組む。
- ③地域の農山村や環境に興味をもつ。
- ④聞き書きにより、問題発見力、コミュニケーション力を身につける。
- ⑤名人への取材を通してキャリア意識の充実を図る。

科目「環境創造」(2年次2単位)の授業を活用し、
2009年度は生徒15名が、7月に埼玉県小川町、毛呂山
町、東秩父村において竹細工、炭焼き、農具などを営む
名手・名人4名を対象に聞き書きによる方法によるイン
タビュー調査を行い、これをもとにレポート作成と発表
会を実施した。同様の方法で2010年度は生徒26名が名
手・名人6名にインタビュー調査を行った。

4. 実践の様子

(1)事前学習…2日間

1学期末である6月中旬に事前学習を行った。共存の
森ネットワークから講師(田代純一氏、森山紗也子氏)
を迎えた。森聞きの実験者として2009年の授業では、
共存の森ネットワークから代田七瀬氏を迎えた。2010
年の授業では、本校卒業生の安藤愛さんを迎えた。以下
は、事前学習時に生徒が学んだ内容である。

- ①「竹と日本人の暮らし」というテーマで、農山村に
暮らし、仕事をしている人たちのイメージを学んだ。

- ②「聞き書き」術とは何かというテーマで、取材先へ
の挨拶や取材日の設定についてアドバイスを受けた。

③準備作業として、所在地、交通手段、取材時に必要な用具を確認した。

④質問項目の整理として経験者の代田氏、安藤さんからアドバイスを受けた。

⑤インタビューの仕方について、生徒や講師が取材する側とされる側に分かれて練習を行った。

⑥取材後の作業として、テープに録音することと書き起こすことを学び、調査に臨むこととした。

(2)農山村調査…1日

夏期休業中に調査日(2009年度は7月31日、2010年度は7月27日)を設定し、一斉に聞き書き調査を実施した。

当日準備した物品

テープレコーダ 各班1台

カセットテープ 各班2本

デジタルカメラ 各自で準備する。

交通費 800円(若葉～小川町往復)

電池、弁当、水筒、帽子、雨具等

調査後、2学期が始まるまでに各班で写真の整理、テープ起し(録音をもとにワープロ原稿を作成する)を行うこととした。

(3)事後学習…1日

2学期最初の授業で、写真を選び、テープ起しをもとにした発表資料の作成にとりかかった。発表資料として各班で準備するものは、ポスターとプレゼンテーション資料(パワーポイント等のスライド)である。

(4)発表会…1日

9月中旬の授業時に、発表会形式で各班の調査結果を報告した。その際、共存の森ネットワークから吉野奈保子事務局長と講師の方々にご出席頂いた。

(5)生徒の様子

調査対象者は初対面であり、しかも年齢がかなり上の方々であるため、どの班も緊張の中での取材であった。テープレコーダーを回し、写真を撮り、質問をしながら時間をかけて行くうちに、次第に緊張がほぐれ、コミュニケーションを図ることができたようである。その様子は、生徒が発表資料として作成したポスターに取材時の感想が書かれている。この調査を通じて生徒が共通して感じたことをまとめると以下のものであった。

①農山村で行われる仕事は、地域の伝統として続いていたものが多い。伝統を絶やさないために、名人が自ら後継者になったり、伝統保存会を設立した経緯がわかった。

②取材先の中には後継者が絶えてしまったり、当代限りで絶えてしまうものもあり、生徒自身が伝

統を知りたいと思った。また伝統を大切に繋いでいくべきだと感じた。

③名人は、良い作品を作ることにより他人に評価してもらうことや、他人の役に立つ物を作ることで、仕事の楽しみを感じている。

④伝統保存会が設立されている集落では、伝統を継承することで人が集まり、仲間が作られている。

⑤伝統的な産業は、時代の流れの中で消えていくが、自然由来の製品の良さや日本の風情をあらわすものとして見直すことも考えなければならない。

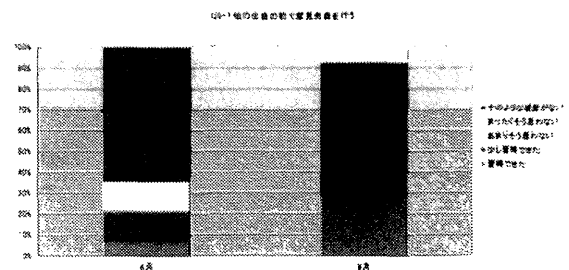
5. まとめ

2009年度はSPPの活動の一環として実施した。事前事後で生徒の自己評価を比較したところ、以下の点で効果が認められた。

(1)言語活動への効果

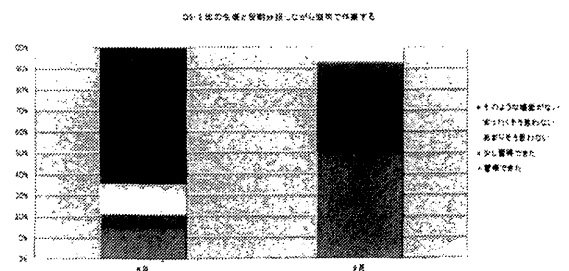
①他の生徒と役割分担し共同で作業する。

事前(6月)では肯定的な評価は2割程度だったが、事後(9月)には9割強となった。(図1)



②他の生徒の前で意見発表を行う。

①と同様、事前(6月)では肯定的な評価は2割程度だったが、事後(9月)には9割強となった。(図2)

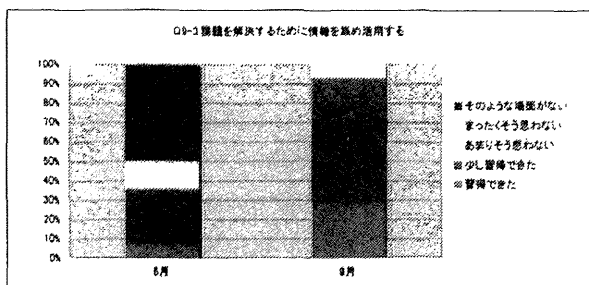


(2)キャリア教育の基礎

本校は教科「産業」を通じて生徒のキャリア意識を高める教育を継続して行っている。特に2年次は、「起業基礎」の授業の中で、課題発見能力、課題解決能力、プレゼンテーション能力等の向上に力を入れている。そのため、生徒はさまざまな授業を通してキャリア教育に関する能力を身につけている。

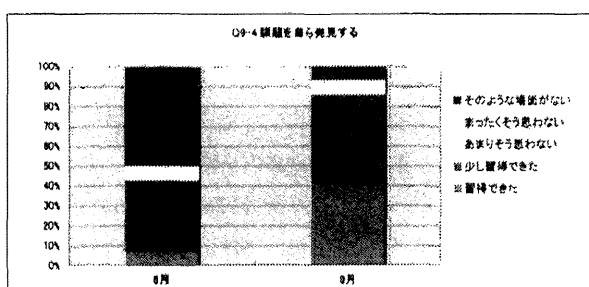
①課題を解決するために情報を集め活用する。

事前(6月)では肯定的な評価は3割強だったが、事後(9月)には9割強となった。(図3)



②課題を自ら発見する。

事前(6月)では肯定的な評価は4割強だったが、事後(9月)には8割強となった。(図4)



(3)講師の声

共存の森ネットワークの講師からは、以下の意見が出された。

①単発でなく複数回の授業だったため生徒の反応や理解度がわかり有意義だった。

②学校現場に外部の者が入っていくこのような実践は、やりたくてもなかなかできない。

③今後、学校を始めとした教育機関と事業を進めていくモデルとして十分な波及効果が見込まれる。

④SPPが実績やノウハウとなり、今後SPP実施校以外にも教育現場に入るチャンスが増えると思う。

(4)実施者の振り返り

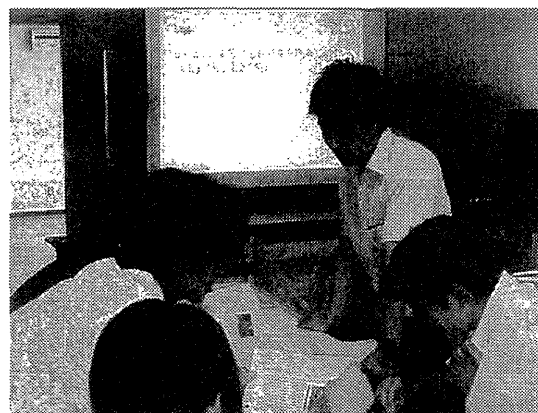
実施者である私自身は、学校周辺地域にどのような取材対象があるのか、またその取材方法はどのように行えばよいのか、課題が山積する中、それらのノウハウを持つNPO法人と連携することで、生徒の言語活動を高める取り組みの第一歩を踏み出すことが出来たと捉えている。この活動により、生徒にどのような能力が高まるのか、より効果的に展開して行くにはどのような課題があるかを論じるには継続的な実践が必要であると考えとともに、われわれが目指す森林環境教育プログラム全体の中での位置づけもより明確にしていく必要がある。2度の実践を終えた今、ひとつ言えることはその効果が生徒の研究活動にも現われてきたということである。本校

では、2年次の3学期から3年次の3学期にかけて、生徒全員に卒業研究を課している。各自がテーマを選び、本校での学びの集大成として研究を行い論文を書かなければならない。そこに聞き書きの体験をもとに、卒業研究でさらに取材対象を増やしてまとめた生徒や、途絶えてしまった伝統工芸の再現を試みた生徒が現われたのである。また、この聞き書きをもとにした調査方法を論文作成に利用している事例も見られた。

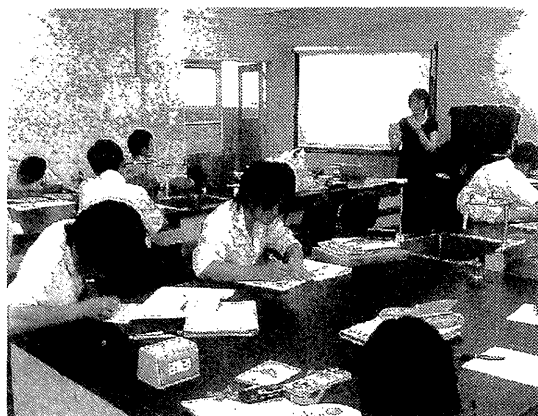
6. 引用文献等

文部科学省(2009)新高等学校学習指導要領
「共存の森ネットワーク」ホームページ
<http://www.kyouzon.org/index.html>

(写真1)事前学習



(写真2)事前学習



(写真3)農山村調査



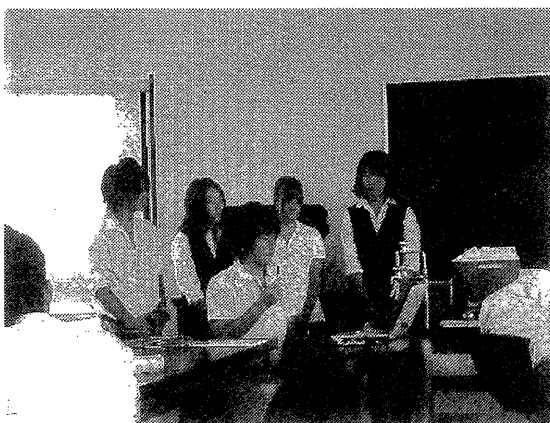
桜箕職人 毛呂山町 福田クニさん宅

(写真4)農山村調査



竹細工職人 小川町 持田信三さん宅

(写真5)発表会



桜 箕

—自己紹介をお願いします

名人の福田進は、先日他界しました。
進の兄武男、大正15年1月5日山羊座です。
家内のクニ、昭和8年2月21日魚座です。

—桜箕ってなんですか？

穀物を選別するのに使う、農具のひとつです。
この毛呂山町葛貫では、明治時代から作られていて、桜の皮を使って作るのはこの地域だけでした。農閑期にはこの地域の農家はほぼみんなが作っていたのですが、プラスチック製のが普及されると、だんだん作るものも減っていきました。
昔はね、つくった桜箕を自転車につんで秩父の方まで行っていましたね。桜箕の売り子さんが、町を歩いてたもんだね。
篠竹に山桜を編みこんで、藤蔓でくくって作るんだ。材料の収穫期がそれぞれ違うんだ。
兄ちゃんが作ってみようかって言うにはいったんだけどな。習ってみるか。ただこうはうまくはいかないだろうな。今では作れる人はいなくなっちゃったよ。

—プラスチック製の箕をどう思われていますか？

まあ便利だけどね、滑って仕方ない。脱穀するときに大変だよ。今は機械があるけど。
プラスチックと桜箕どっちがもつか…。桜箕は縁の藤蔓が切れない限り使えるからな。
十五夜の日にお団子を乗せたりするのはやっぱり桜箕かな。飾り箕を作ったらね、みんな欲しがります。何枚も作ってね。いま、農家のほうでこれあんまり作らなくなって、飾り箕作ったほうが売れるってね。

—材料はなんですか？

桜の皮と藤蔓、篠竹。
1人で全部やって、手の出しようがなかったけど竹を割ると、皮を取るのには手伝ったね。篠に皮がくっついてるでしょ、あれを取らなくちゃダメなんだ。
藤蔓は春先ならシャヤーっとむけるんだよ。水あげたとき、葉っぱが出ねえからね、しっかり別れんだよ。

竹はオシギリをつかって一定の長さに切りそろえて、60本程度に割るんだ。

細かい作業だけど自分の好きなようにやってたさ。
向いた木はそのまま肥料とかにするわけでもなくポイしてたさ。竹は丈夫だし、しなるしな。

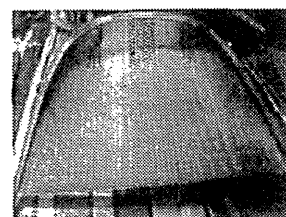
桜の皮はここで、篠竹はあそこってそれぞれポイントは決まっていたけど、教えあたりはしてなかったな。それもやっぱり、技術というか。

—桜箕作りのほかに何をつくられてたんですか？

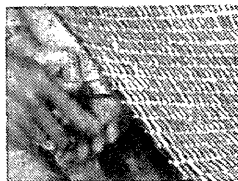
本業は農家だから、あくまで副業だったからな。
薫草履を資料館に何回も教えに行ったことが。これは、昔に作って学校履いて行ったんだけど、学校行っても勉強しない、兵隊さんにみんな取られちゃったから、勤労奉仕で。
カゴとかは、ほかの作ってるところから買ってたな。
資料館に桜箕も作りに行ったりしてたよ。そこで逆に面白がって買ってくれた人もいたなあ。最近では、純粋な注文はなかったなあ。実用でっていうのは。

—ベテランになってもうまい下手ってあるんですか？

やっぱあるよ。あいつはうまかったと思うよ。
作るのにはやかったしな。



▲ 桜箕



◎名人 福田進さん

生前は、桜箕がプラスチックにおされても作り続けていた。
資料館に作りに行っていた。



竹からものを作り出す手

～でも仕事を辞めたいとは思わねえね。

やっぱ、好きだかな～

* 竹と暮らす俺 *

名前は持田信三(もちだ のぶぞう)。昭和17年2月3日生まれ。出身は小川町の川の向こうなんだけどね。小川町大塚。父の仕事を継いでるんだけど次男坊だからね、独立したんだよ。独立してから41年たつ。この仕事は50年はやってるけどね。

* 子供の頃から好きだったね、この仕事が *

子供のころ手伝ってたってたんだ。うちも忙しくてね、間に合わないからやれって。近所の子達もね。仕事をみんな手伝ったんですよ。小学校5年生ときから。けど苦じゃなかったんだ。そりゃ、好きだったからね。親の見ててね、やりたいなあって。親のこと尊敬してたっていうか……好きだったね。この仕事かね。

* 地元・小川の今の竹 *

今の小川と昔の小川だと、竹の多さは今のほうがかえって多いんじゃない。ただ、いい竹がなくなってきたの。だんだん。竹切らないからいい竹がなくなってきたんだよ。……竹を切る人もいねえし、荒れちゃってるからね。竹も切らないと、新しい竹が出てこないからね。

* いい竹と悪い竹 *

山にもいい悪いがあつてね。そういうのは山見れば分かるね。北山で生えた竹がいいね。北に生えてる竹がいい。南斜面で育ったやつは日当たりがいいから節が堅いんよ。堅いとやりづらい。だから北斜面の竹が材料としてはいいんだよ。あと、雑木に生えている竹ね。樺とかクヌギとか落葉樹が生えているものね。そこに生えている竹は木と共存してるんだよ。共存するから伸びるん。それに肉は薄い方が割合いい竹なんよ。伸びのある竹は割合薄い方がおいしいからね。あとは節合いついていうんだけど節と節が長いやつ。それがいいやつ。

最近業者の人から買うんだよ。自分で取るのはよいじゃねえよ。それにでっかい山じゃなきゃだめなんですよ。日があつちやうから。大きい山の真ん中らへんのがいい。中の方の竹じゃなきゃね。外の方の竹はねもう新しい竹でね。手前に出てる竹はだめ。だから出来るだけ中の竹がいいんだ。

まあ竹を大体見ただけで分かるけどね。勘でね。それに色も違うし。新しいのだと青い。古すぎるのだと黄ばんでくるん。7、8年たつた古すぎるのはだめだね。3年から5年くらいが一番いいかな。新しいのは縁巻ききつてのに使うん。縁巻ききつていうのはかごの上に巻いてあるんね。

* 竹の種類 *

大体うちで使ってる竹は真竹(まだけ)っていうんだけど。孟宗竹(もうそう)も少し使うんだよ。普通は真竹が9割以上なんだね。真竹は粘りがあつていいんですよ。粘りがあると

綺麗に出来るん。孟宗竹はちょっときめが粗いからね。いいかごが出来ないんです。だから、孟宗竹は安いかごやかごの芯に使うんだよ。

あと、真っ青な竹が見えるだろ。今年の6月くらいに生え始めた竹。あれを12月にきつて来年使うよ。ああいう生えて年数のたない竹を新子っていう。半年でもう腐ってきちゃうんですよ。新子だから。タケノコだった竹だったから。半分にする

すると腐らないんですよ。

| 毎日のスケジュール | |
|--------------|--------|
| 6:00 | 起床 |
| ～7:00 | 朝食や身支度 |
| 7:15～7:30 | 作業場へ移動 |
| 作業開始 | 一日8個程度 |
| 17:00 | 作業終了 |
| (昔はもっと長かった。) | |

～かご作りをピックアップ～

* かご *

すぐはできねえけど、裂く時間もあるからなあ……編むだけだったらこのかごで15分くらいかな。底上げで10分。はじめから編むなら縁まきも含めて35くらいで出来るかな。

* まさわり *

これをまさわりっていうんだけど、これが一番難しいんです。大変なんです。半分にするでしょ、そのあと四つ割りにするんですよ、その時が緊張するね。細くなつてく前の段階が一番難しいっていうか、神経使うん。この作業がびったり出来ないと、四本はとれないんだよ。簡単に見えるけどね。これ失敗しちゃうとね……細く割れないから。これをしっかりやつておけば細くやるのはそんなに難しくはないね。竹を割るにはこうやって半分にして。糸に……糸ほどじゃないけど半ば細くして。これを半分にして半分して、これで四本とるん。こうやってあわせてね。二本いっぺんとるん。部分だけかたよつたりするんだよ。紙みたいで、繊細な作業なんだよ。全部平らなら簡単なんだけど、すごくしなつてな。びくびくさせると、どこが変か分かるん。平らになってないんだね。変なのは、足も使った方が早いんだよ。足使わない人もいたんだけどね。足使わないとね。向こう側がうまくいかないんだよ、んつと。足使うとねここがすこしずつまるくなるんだよ。もっと早い人もいるよ。

* 幅こき *

厚さも均一なんだよ。平らになるとだめだね。編むときに編みづらく



てしょうがないから。竹割りの下手な人はねえ。格好いいかごは無理だよ。材料造りが下手な人はね。いくらいいかご作ろうにもできないん。材料造りが一番難しいんだから。で、これで均一にするん。幅こきつてね。幅決めともいうけどね。幅を決めるやつなんですよね。完全に均一になるんですよ。本当にいいかご作りたいなら二回も三回もします。

* 縁まき *

縁まきを見せるからね。乾いてるやつが多いから一回濡らすんね。新古だから。乾いてる竹だから。曲げて繋げてね。丸くしてね。中縁ついてね。中入れるから中縁っていうんだけど。これをいれるん。縁まきの時も足を使うん。全身を使わねえとぐらぐらしちゃうかんね・・・

* 大変なこと *

大変なことは……みんな大変だけど……うちなんかで一番神経使うのはまさわりかな。仕事で材料の良さも分かるし、今日の竹はいいなって割とすぐ分かるんですよ。というか半分にしただけで。いい竹とか、悪い竹とか、割りづらい竹とか。

* 遺跡の復興 *

もう3年まえごろ松山の高坂で遺跡がでたんだよね。岩殿観音の前辺りだよ。千年以上前のを復元してくれていわれてねえ。泥ん中に埋もれてたんだよ。かごっていうのは普通風化して消えちゃうんだよ。それがかごめだね。大きいんでね。1メートル50くらいかな。んと、二日くらいで復元したんかな。

上手くできたときはすごく嬉しかった。ああいうのはね寸法が違ったらだめだっていわれるんですよ。大きさが決まって、竹の幅が決まってね。誤差を10cm以内にして下さいっていうんだよ。出来たときは嬉しかったね。安心したよ。ぴったりで誤差がなかったから。大体ぴったりだね。って向こうの人もほめてくれてね。あれは難しかったなあ。大体かんでやるからね。図がないからね。これでいけばこのくらいの大きになるってのは目でね。やっぱり長年の経験だね。

* 仕事の速さ *

仕事の速さは二十歳くらいにはこの早さだったよ。公民館とかでやると、「お宅は何年やってるんですか、ずいぶん早いですけど」って聞いてくるから「50年やってます」っていうけど長くやったら早くなるもんじゃないんだよ。長くやって早くなるなら50なったらもっと早いだろ？速さは天性でからね。



かごを編む持田さん

努力と天性だから鈍い人は一生鈍いよ。

* くす玉 *

あとくす玉は前に三尺ってやつを作ったんだ。すぼみから編んでいって、こう広げていくんだ。二尺のくす玉は編むだけで20分くらいなんだけどそれを二つ合わせるの。割るのもあるから一時間はあればできるかな。針金でとめたりするからね。お

祭りだけじゃなくて、開通式でもやるがね。それにつかうんだよ。小川でやる七夕にも作るんだよ。いつもはだいたい45から60くらいのなんだけど。簡単に見えるけど小川なんかでは利用があるから作るけど他のところでは利用がないからね。他のこの人は作りたがらないんですよ、くす玉は。

* その他の竹細工 *

かごとくす玉以外にざるとか作れるな、今はつくってないけどね。あとうどん上げかな。あとはあれが衣装箱だよ。和紙貼ってその上に漆を塗るんですよ。これ東京の日本橋の岩井葛籠店ってところで毎月送ってるんですよ。これはね、中蓋があつてね。帯留めとかかんざしとか小物入れなんだよね。和服の小物入れ。で、こっちが着物いれるやつなの。これに漆塗るとね。竹のめがずーっとでて綺麗なんよ。軽くて持ち運びが楽だね。この前テレビ見てたら梅宮辰夫が家にこれおいてたん。あの衣装箱は10500円くらいするんですよ。昔とどっちが高いんだかわかんねえや。

* 弟子 *

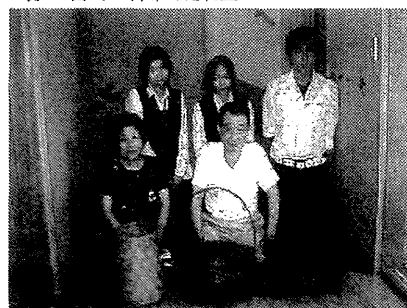
兄弟子以外にも父の所に弟子はいたよ。だけど仕上がったのはその人しかいないんだよ。あとは籠屋の紹介で来た籠屋のせがれが来たからね。一年、二年ぐらいいると自分ちに戻って親の手伝いしたりね・・・

他の竹細工さんと違ってここを工夫してるのはね・・・昔は一人前の籠は作らなかったんだ。昔は大きいうどん上げでしたよ、皆。小さいの出来たってこんなきれいに出来ねえんだよ、下手くそだから。小さいほうが難しい。最初から小さいので習ってたら難しくはないんだけど、でかいので習ってるからね。慣れちゃえば別に難しくともなんともない。昔は小川だけでも十八件くらいあったから分業でね、三種類くらいうどん上げがあったんすよ。それだけ皆別で・・・職人が皆別なの。だから昔は大きさによって買いに行くところが違ってたんよ。うちは真ん中の一番大きいのが作った。一番小さいのは作らなかった。だから出来なかったんですよ。やってみれば難しいことはないんだけどね。最初は綺麗にできないんだよ。

竹細工は面白いですよ。・・・今一番辛いのは腰が痛いことかな。去年は指も痛かったからな……それに復興もあったからね。ホントに泣かされた。でも仕事を辞めたいとは思わねえね。やっぱ、好きだからな。やめたら困るしな。

取材先：持田信三さん

取材：吉井萌恵・藪内哲郎・成田湖葉里



「SUMI」 山田善三さん 79歳

高校卒業後、農家である自宅の手伝いのかたわら、近隣で炭づくりを生業としている人に炭づくりの技術を教えてもらう。20歳ぐらいの時から炭焼きを始め、現在は農業・林業などを息子とともにやり、炭焼きを続けている。

弟子が2名おり、両方とも自立して炭づくりをしている。炭焼きは秋から冬にかけて、作業を行う。竹はモウソウチクを使い、近隣に住む人たちにいただく。炭作り以外の時期は、農業をやっている。

炭について

竹炭には毛細管がある。竹炭の方が表面積が大きい。木炭は茶道炭に、竹炭はバーベキューや消臭に使われる。茶道炭は、大きさに決まりがあり、切つてそろえるのが面倒だが、高値で売れる。今でも需要はあり、弟子の方はこの茶道炭が専門。10年ぐらいのクヌギが茶道炭に向いている。なぜなら皮が成長していくと、炭にする時に皮が剥がれて、菊炭にならないから。(菊炭とは炭の断面が菊の花のようにになっているもの)

また、竹炭は苔を入れて、花を植えるのにも使われるほか、炊飯の時に炊飯器の中に入れ、ご飯をおいしくしたり、水道水の中に入れて、ミネラルウォーターになったりする。

バーベキュー用の炭は、2、3時間火を持たせればよい。そのため、火持ちが良い炭は無駄になってしまう。そのため固いクヌギの炭は、長持ちするのでバーベキューには向かない。

昔は、炭で火をつけたり、こたつに使ったりしていたが、今では電気が一般的になっている。

倉庫の中には袋や段ボールの中にたくさん炭が入っていた。

良い炭は銀色に光り、焼きすぎると白くなる。炭を作る時に出る、木酢液や、竹酢液は、消炎、抗菌、消臭などさまざまな効果があり、入浴剤、防臭剤、防菌剤、香

虫忌避剤、園芸など用途に使える。

炭作りについて

1年くらいで、炭の作り方は覚えられる。

炭作りに使う木は、切った後半年寝かせる。取材に行った時に窯から出した木は、去年の11月に切った木だった。

炭を作る時、木を縦にして窯に入れるが、炭にすると体積が減るので、木が倒れる。だいたい、4~5センチ縮む。

炭を作る時、敷き木と乗せ木をする。

→ 全体を均一に焼くため

炭を作るのには6日かかる。作り方は乾燥させて、燻してそれから火をつける。これをしないと燃え尽きてしまう。

温度を見ながら作り、250~400℃のときに「精練」を行う。精練のタイミングがバラバラなので、精練の時間帯が夜にならないように工夫をしている。

窯について

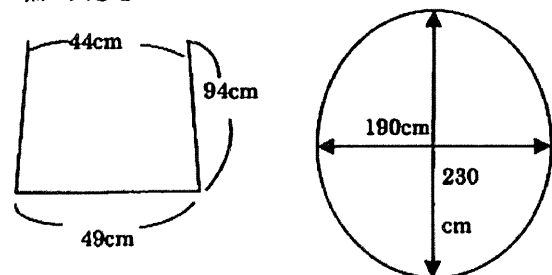
今使っている窯は、平成12年に作られたもの。窯は1人で作ると1カ月くらいかかる。

窯の中はレンガが積まれていて、床もタイルが敷かれている。

窯の奥には煙突へとつながる穴があいていて、そこはタールがたまるようにちよっと下がっている。

窯の口は、レンガや、粘土などで固める。炭を取り出す時は、その壁を崩して取り出す。昔の窯はもう少し小さかった。

窯の大きさ



たかなわものがたり
竹縄物語～昔と今を結ぶ竹～

話し手 関根尚一 若林利明
聞き手 代田七瀬 小木広樹 青沼剣函 小林歩 中川沙羅葉

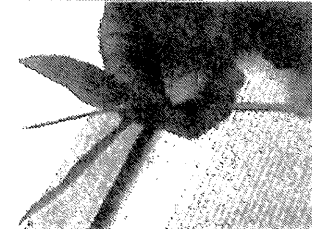


若林さん 関根さん
関根さんの本業は建設業で、昭和14年1月12日生まれの70歳。「竹縄保存会」で、年に2～3回だけ竹縄を作っている。現在はベテランと呼べる作り手はおらず、会のメンバー10人前後で伝統を継承するために竹縄を作り続けている。『若い人が手を出してくれることがあったらいいね...』と悩んでいる。

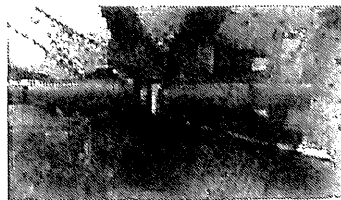
・竹縄作業工程
①竹きり



萩平でとれるマダケを使用。7月27日～8月7日のうちで傾斜地の山から2畝(3m50cm)に切り揃えて運び出す作業は最も大変。



「トンボ」の状態を過ぎると(葉が3枚以上出る)竹がこわく(硬く)なる
←トンボ



②竹炙り
虫に食われなくする作業
切った竹を一のように結び、束にして下から大炭の薫を(今はビーム炭)熱やし、「トカントカン」と節が抜ける音がするまで炙る。

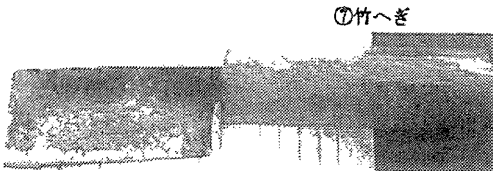
③竹割り
炙った竹をその場で5～6等分に裂く。熱いうちは柔らかく裂きやすいが熱湯が出てくるので注意!

④竹干し
1週間ほど天日で干して乾燥させ、虫食いを防ぐ。カビが生えぬよう、雨の日と夜はブルーシートをかぶせる。乾いたら囲炉裏の上で保存。

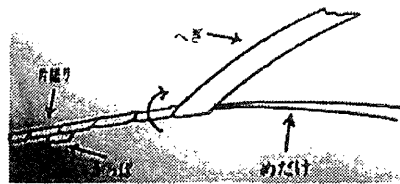
⑤たけして
干した竹を水に1～10日間ほど浸して柔らかくする。



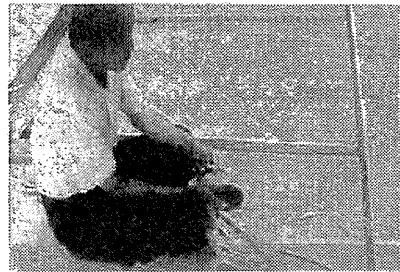
⑥しごき
柱を使い、竹をしならせ柔らかくする。



⑦竹へぎ
「うすば」↑で1本の竹を5～6枚に竹をへぐ。



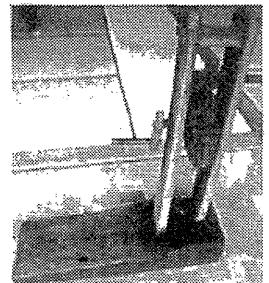
⑧なわより
「めだけ」を芯に、「へぎ」を巻きつけ、「蜘蛛手」に絡めておく。



⑨なわぶち
⑧でよった縄を3本で1本にする。

⑩よりかけ
3本絡んだ縄を「よりかけ機」を使って強く纏り合わせる。

先端から「こすり」して編目をつぶしてロープ状にする。



完成!!

・竹縄を使った主な製品
馬のくつご・草履・井戸のつるべ・屋根の結束等、とにかく水に強が、今は売れるほど量産できない。

・関根さん、若林さんのお話し
大変な作業だからお金でいくらですかと聞かれてもいくらと言えない。ひとつの物を製品にするのは大変なこと。口で言うように上手にできるものじゃない。竹縄作りにベテランはいないから、もう竹縄を作って何本も出すのは無理。炙る炭までこの辺にはないから。材料もないってこと。だから本当にこれは幻だよな。もう本当に(若い人がやりださないのは)宝の持ち腐れだよ...

・感想
竹縄の水への強度や、手間や時間がかかることに驚きました。幻の竹縄作りについて知ることができたので、これからは私たちが、この文化を広めていけたらいいと思いました。今度、機会があれば実際に竹縄作りも体験してみたいです。

技を編みこんでゆく手

名人：持田信三

聞き手：板谷瑞樹、木村幸一、長島孝行、田中穂南

I. 自己紹介

もちだのぶぞう

名前は持田信三。昭和17年2月8日生まれの68歳だよ。五人兄弟の次男坊で生まれたときからずっとこの埼玉の小川町にいる。竹細工職人の親父の手伝いを長男の兄としていたのがきっかけで小学校5年から竹細工を始めてねえ、本格的に始めたのが15の時。それが仕事になって、今まできたってわけよ。もうかれこれ、53年たつね。

II 竹細工の仕事

(1) 材料

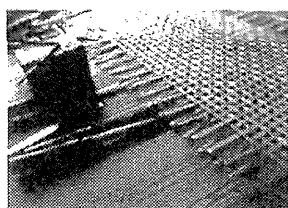
竹細工には、群馬の広い竹林で取ってくる真竹、孟宗竹を使う。狭い竹林じゃ悪い竹ばっかだから。場所は東秩父のが一番良いんだけど切ってくれる人がいなくなっちゃったんですよ。良い竹はね、節と節の間が長くて、まっすぐしてる。それから節が出っ張ってなくて、肉が薄い、繊維の細かいやつが竹細工には使いやすい。取ってきてすぐにはあまり使わないね。取ってきてすぐのは水分が多い。それだと後で乾燥した時かごが縮んじゃったりするからダメなんだ。

(2) 道具

道具はね、竹を割ったり剥いたりするのに使う鉈、竹の細さを揃えるのに削る鉈、これは四角い箱に付いてる二つの刃と刃の間に竹いれて削って使うの。鉈以外にもあるよ。衣装箱編むときは底の角っこ曲げんに木箱とこて使う。木箱に竹当てて、こては90度にしてきゅっと曲げんのね。あとは自分の手と、足とだね。

(3) かごが1個できるまで

とってきた竹を細く割って、緑と茶の部分が分かれるように剥いで編むためのひごを作るんが最初。かごは底の部分から上に向けて作っていくんだよ。土台になる底をしっかり編みこむんが大切。それから上に向かって編んでいく。色の加減とか丈夫なようにとか考えながら緑と茶のひごを組み合わせて作りたい大きさまで編む。縦のひごに横のひごを上、下、交互にいれるの。それで最後に丈夫になるように枠をぐるっと一周通して終わり。レポートリーは50くらいあるんじゃないかねえ。夏はうどんをあげるようなんを沢山作るよ。



III. 名人の感じるやりがいい

やりがいいねえ、そりゃ自分の作った竹細工を人が褒めてくれる時だよ。よくできたね、って言われんのが一番嬉しい。あとは、他人ができてえことを自分ができたときかな。1000年前の竹細工の復元作業を頼まれて、やり遂げたときなんか、もう、本当に嬉しかったよ。

IV. 父親の背中

親父の印象に残ってる姿はいっぱいあるよ。でも竹細工をしっかり教えてもらった記憶はないね。そうじゃねえって怒られることはよくあったけど。こんなことは言ってたかな。「つくったもんはくれるんじゃないかねえ、売るんだよ」って。だから、よく作れるように自分で努力したんだなあ。あとは早さも。仕事のがろい人は良い作品は作れないから。早さも綺麗さも全部ひっくり返して上手な人が一番だからね。こう思うのは、やっぱり親父がそうだったからじゃないかな。

V. これからの目標

技をあげることなんかより、健康に注意して1年でも長く、竹細工やってること。編み方を覚えてるこの手を怪我しねえよう大事にすること。それが今の一番の目標だな。

<聞き書きをしてみよう>

名人であり、人生の先輩である持田さんのお話を伺い、実際に作業の様子を見せて頂いた事で、竹細工という伝統工芸品に対する知識が増えたとともに、1人の人と真剣に向き合うことが出来たと思います。名人の竹細工を編む速さ、話しているときの表情、工房の雰囲気。テープ起こしをすると、様々な状況がよみがえってきて、もう一度名人のもとを訪れてお話をしている気持ちになりました。そして、日本の伝統を私達が引き継いでいかなければならないんだという事を考える機会にもなったと思います。

日本にはまだまだ多くの伝統的な技やものが残っています。今回聞き書きを行ったのは竹細工についてでしたが、また聞き書きを行う機会があったら、私たちの暮らしを豊かにしてくれる森、海などの自然に関わる仕事をしている方々のお話をじっくりと聞き、同じ世代、次の世代に伝える試みをしていきたいと思いました。

聞き書き調査 ～椎茸名人～

話し手 佐藤 博

聞き手 宮澤 大輝 横田 桜子

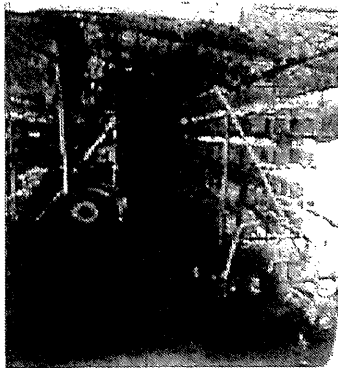
石川 左近 日高 未稀

名人プロフィール

1940年（昭和15年）11月18日生まれ。

69歳。

農業、しいたけ・なめこ栽培を行う。小川町で生まれ育ち、学校を出てから家業である農業を全般的にやってきた。野菜は直売所とスーパーに出荷している。以前は田んぼもやっていたが、今はやっていない。しいたけはかつては原木でやっていたので7反の山の一部をひのきにして原木を育てていた。



1. シイタケ栽培を始めたきっかけ

70歳じゃ会社ではとっくにお祓い箱だかんね。農業はね、臨終定年、死ぬまでやるっていうんだよ。一番最初のきっかけっていうのはね、私はシイタケの原木の供給する側だったの。たとえば一番近くでいうと吉見あたりから、鴻巣、北本、上尾くらいまでね、もとの材料の供給をしていたの。私はそれを50くらいまでやったん。だけど毎日12tじゃこの歳じゃ無理でしょ。だか

ら続かないってことが第一。それからキノコを作って売って採算が取れるんじゃ、自分で栽培を始めた方がいいなど、そういうのが原点なんだよ。平成17年には農林大臣賞まで貰ったんだよ。

2. 原木、きんしょう栽培について

原木を片づけないであるんだけど、一般的にはこれがキノコ栽培のもとなんだよね。山の木を1メートルくらいに切って、それに穴をあけて種ゴマ植えて、1年半山に寝かしておいて、それで採ってきて、水槽の水につけて、立て込むとね、キノコが出てくる。キノコはね、25℃を超えると栽培するには暑い。原木は自然だからその時期しか採らないかんね。かなり集中して発生するんだよ。採るのが大変なくらいだね。大きいので1キロ以上は採れるだろうね。キノコのとまが劣化してくるとね、かなり傷んでそこへ虫が卵産んじやうんだよ。それがキノコバエ。結局農薬は使えないから、除去シートで駆除するしかないの。たまはね、大体おがくず主体。コナガオとかクヌギ、ああいった木を粉にしたものが主な原料。たまはね今だと1つ300円くらいかな。だから年間300万以上は投資してるかな。

感想

びっくりした。宮澤学ぶことが多かった。石川緊張した。横田行けなくて悔しかった。日高



『シイタケ名人 安藤 郁夫さんに聞け!!』

話し手：安藤郁夫さん

聞き手：2-D (21)高橋 (25)中島

(26)野本 (26)中村 (32)増山



1、安藤さんについて

昭和6年8月21日数えて82、ここで生まれて、この土地で育ってきました。

小さい頃は、やっぱり大きくなったら兵隊さんになるんだ考え方がなかったみたいで、勉強っていうよりもそういう訓練ばかり、軍人になるための訓練ばかり教え込むような、戦争に負けるなっちゅうな、そういう風になっちゃったんだね。

2、戦後の農業

昭和40年ごろ、最初、家で農業やりながら、山の仕事を冬はやって、夏場は農業やって、そういう感じで暮らしてるわけなんですよ。だんだんなんて言うか、戦争に負けて、自分の考えてたことはもう、どこ行っちゃったんだかってなって、みんな新しい自分の思い思いの勤めに出る人、また農業やる人は1番少なかったな。都内に行ったほうがなんか、すごくたくさん貰えたらいいですよ。この辺の農場の手伝いをしてるよりも、体が丈夫で、弁当作る人がいて、早く家を出て、都内まで働きに行く、一時期ですけどね。それが、定番だったな。

3、安藤さんとシイタケ

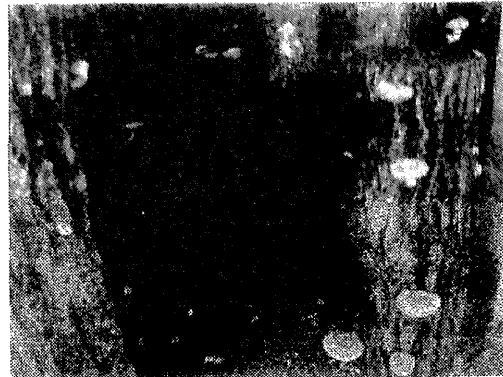
シイタケ栽培はぐんと遅くなってからだったんですね。西の郊外のほうでは、意外とシイタケをやっているようだって、こっちでも「やってみたらどうだい」そういう話のもちかけがあったわけよ、それでシイタケ組合を結成して、みんなじゃあ組合がしっかりすれば、市場へ車が町へ行ってきましたよ仲間が。

4、シイタケについて

種駒を入れて誰も、種駒打ち込む時は「この木いっぱいシイタケが出て」と思ってやるんだけどなかなか上手いかわらないで出る木と出ない木が出来たり、それが年によるんですよ、雨が多すぎたり、雨が少なくて逆に乾いちゃったり、そういうので、多かったし、量もうんと生産出来たっていうそういう時が、一番良かったわけなんで

しょうけど、でもこうやってやる量ってのはたかが知れてるからね。それほど良いわけじゃないけど、でも張り合いがありましたね。何しても全量買ってもらえること、出たものが、みんな持ってくれば引き取ってくれるわけ、管理する前に原木がありますね、山にこうやって立木で立っているわけ、その木を伐採して欲しい1カ月くらい伐採してそのまま置くんですよ。倒しただけで、すぐ植えちゃうとね、菌が乗らないです。あれは生きている木には移らないので、木が枯れるのと一緒に食い込んでいっちゃうんですよ。生木は出ないっちゃうことだね。どうしても1カ月から50日くらいはたってから伐採してから、そのくらい日が立ったものに植え込むっちゃうことですね。もう生き返らないようなっちゃったんで、早い話がね。だいたい、まる1年ね。良いキノコにするには1年半くらいかかってやっと出てくるくらい。

他にも、金づちかなんかでこの原木をコンコンと叩いてやるとその響きでこの、まあ刺激を受けてまあ「あれ、なんかおかしいぞ」ってんで、こうひとりでも出てくる。そういう方法もあるんだいね。刺激を加えて。



5、原木シイタケ

原木は地元が作業しても値はいいんですよ。

中国のやつと比べると、香りが全然違うなあ、同じシイタケなんだけども香りが違うわ、強く来ないな、ああいうのは本物でなくちゃ。菌床っていうのは、木くずをこう固めてね、もう菌がまぶしてあつからどこからでもキノコが出てくるんだよね、まあ見たことあるかと思うけど…今は大体それですね。

6、感想

今まで、しいたけはスーパーでしか見ることはありませんでしたが、今回、原木に直接生えているシイタケを見て、原木であんなにも多くのシイタケを栽培していることに驚くとともに、82歳というお年で栽培されていることに興味しました。安藤さんがこんなにも元気なのは、シイタケのおかげなのかと思い聞いてみたところ、胞子を吸っているせいか風邪をひかないそうです。その話を聞いて、シイタケは安藤さんの人生のパートナーでもあるのだと思いました。

できるまでやる

話し手 柴崎賢夫

聞き手 北村このみ、加藤かざし、中原大地、前田琴美、谷中奈美

名人プロフィール

私の名前は柴崎賢夫といます。年は73歳になります。林業は、親父から継いで67年目かな。何せ、中学を卒業してすぐやったからな。昔って言うのは、人より群を抜いて良くなきゃ高校もいけなかった。だから俺は、群抜してなかったから親父の仕事を継いだんだ。継いだってつっても、最初は見習いだったさ。今まで、仕事をやめたいと思ったことなんてなかったな。

1年の仕事の流れ

大体1月から3月の間に地拵えをするんだ。植林するために、60年から70年たった木をみんな切ってやってやるんだ。これを皆伐って言うんだ。そんで、4月から5月の間に植林をする。大体3人でやって、5000から8000本くらい植えるかな。6月には下草刈の1番をやって、3番までやる。これをやらないといい木ができないうんだよ。9月から3月にかけて間伐をするんだ。間引きだな。

枝打ち

植林から10年くらいつと、ねあげをする。ねあげって言うのは枝打ちのことだ。しないと、腐りとか軟らかいところができるから必ずやらないとだめ。木材にすると節ができてしまうし。ねあげも間伐も良い木にするためなんだ。良い木なら高く売れるしな。

やり方

ねあげは鉈を使ってやる。植林してから10年たったらするんだけども、根元から30尺ぶつてやるん。ぶつって言うのは、枝を落とすからぶつって言うんだな。木に登るときは梯子を使う。3種類があって、枝打ちをする高さに合わせて高さが違うんだよ。枝打ちってのは経験でおぼえるんだけど。枝があったら、枝の根元から落とす。そんな時に、切り口を平らで滑らかにできたら良い。まあ、これも経験だよな。厄介なのが、上を向いてる枝をぶつときだな。上を向いてると、どうしても下のほうが出っぱちまう。だから、平らになんねえし、滑らかにもなんねえ。そんで、木材にしたときに価値がおちちまうんだ。長い間、やっていると、そんなことにならないようにできるようになるんだ。ただ長い間やってただけで、名人って呼ばれるんだもん。

道具

枝打ちに使うのは2つだな。鉈と梯子。



鉈

刃物は手入れが大変だよ。1ヶ月ほっとくともう赤く錆付いちまう。使ったらその日のうちに磨いで、布で拭かないとだめなんだ。冬なんかには、枝打ちをすると、木が凍ってるんだ。その木をぶつと鉈が丸く欠けちまう。もう使えなくなっちゃう。だから、凍ってるか凍ってないか見分けなきゃいけない。

鎌

下草刈をするときに使う鎌の長さはあんまりな長くないな。刃は鍛冶屋さんと頼んでもらうの。柄は自分にあった長さのを自分で作る。山形の方とか、遠いほうの人が使う鎌は5尺 1m50cmくらいをつかうんだけど、それじゃあいい仕事ができないんだよ。俺たちが使ってる鎌の柄の長さは、人によって違うんだけど。肘を立てて、指を立てた長さに握りこぶしを1つくわえた長さくらいだな。普通の人には、背の高い人はもうひとつ握りこぶしを足したくらい長さだな。これが1番良い仕事ができる。

低コスト植林

去年あたりに組合の人が来て試験的に低コスト植林つうのをやるから手伝ってくれていわれたんだ。低コスト植林って言うのは手間のかからない植林のことな。手伝って見たんだけど、それがひどかったんだわ。地拵えはしないし、早魔を5年に1度やるっていうんだから驚きだったよ。良い間伐って言うのは15年、30年、50年に1回ずつやるんだ。しかも、5割も間伐しちゃう。このやり方だと国から補助金が出るらしいんだ。でも、山のためじゃない、帳面上でやってる。だから、小川中央と寄居事務所に行ってやったんだ。こんなじゃ山にならないし、危険でいい山にはならない。そしたら、やめちまったよ。ちゃんと話を聞いてくれたみたいだったな。うれしかったよ。

農林大臣賞

ここの地主の森田さんって言う人がいるんだけど。その人の山の管理をしてるんだ。それで、俺が枝打ちやら間伐したところが農林大臣賞をもらったんだ。賞をもらったのはほんの一部なんだけどね。人に認めてもらえるのはうれしいよ。林業をやって15、20年くらいやらないと親父や先輩に見てもらえなかったもの。

山仕事

林業って言うのは山仕事なんだよね。山仕事って言うのはどれをとっても大変。昔は車なんてなかったんだから、背負子を背負って山を歩いたもんだ。それに、山は蜂がいっぱいいてきされたよ。



何箇所も。でも今みたいに病院にはいかなかったな。蜂に刺されることはたいしたことじゃなかったからな。山仕事って言うのは大変な仕事ばかりだよ。だけどね、1日やって疲れてもやめようとは思わないんだ。自分ができるまでやる。それが山仕事ってもんだよ。

炭焼き職人に教わったこと！

2-D (4) 石田直之 (9) 金木秀憲
(12) 小林直輝

山田さんについて



昭和5年、2月15日生まれだ。現在ちょうど80歳。うちには所有山林があつてね、そのなかに炭に適したクヌギとかナラとか、カシとかがあつたから作ってるんだ。あと定年退職がないからこの仕事をやっているんだ。国民学校を卒業してから炭焼いたり木植えたりしてるね。15ぐらいから始めたけど、小さい頃から山へ遊びに行ったりしてたね。自分で仕事としてやっていたのは二十歳ぐらいからだね。仕事としては暑いしそんなに売れないし大変だね(笑) みなさんがいっぱい使ってくれるならいいけど。まあ～楽ではないけど、作った炭は自分で使えるからいいよ。寒いときは役に立つ。

炭焼きについて



炭を作るには、長持ちするようにピシッと作らなくちゃなんだよ。セメントが1の焼

き土が2、生の土が3。1:2:3それをよくこねるの。焼き土をなぜ使うかと言うとひびが入らないようにするためだ。かたくどんどん叩いていって空気を抜いてほしい1週間ぐらい置くの。乾かしすぎてもダメ、乾きが足りなくてもダメ。なんでかというとな、セメントはいつまでも置くとひびが出来ちゃうんだ。タイミングをずらさないようにやるんだよ。炭に使う木は自分の持ち分の山から採ってくるんすよ。所有山林は当時は5haぐらいあつたかな。東京ドームが4haだから、あのドームより少し広いぐらいだ。

炭焼き職人について

炭焼きの人口は前から比べたら減っちゃったね。ここは7集落あるんだけど、前は各集落に2,3人いたよ。でも石油とガスの燃料改革でみんなもう辞めざるをえなくなっちゃったんだね。家には弟子はいるんだよ。すぐ前の家にもいるしね。炭焼きを継いでくれるのは嬉しいよ。将来的に考えて、木は再生できる品物だからうまくやれば地球温暖化も防げるよ。二酸化炭素を酸素に変えるんだから。12,3年の若い木のほうが一番効率がいいんだよ。

感想

炭焼き職人と対面して、いろいろなことがわかりました。バーベキューや消臭剤として扱われることが多い炭ですが、製造する過程を見たことはなかったので、とても興味深かったです。取材の後半は実際に作業を体験させてもらい、炭を作る大変さを知りました。機会があればまた個人的に伺って、もっと本格的に教わりたいと思います。

米作り農家「田畑久吉さん」の苦悩と道のり

～基本情報～

今回、お世話になった名人さんは、
田畑久吉さん。72歳。
1938年4月7日生まれ。
生まれも育ちも埼玉県小川町。
家族は妻、息子1人、娘1人。

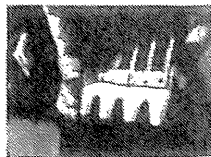


～始めたきっかけ～

米を作り始めたのは高校生の時だった。
だけど一時運送業をしていたんだ。
車に乗りたくて自動車の免許を取って車を買って
運送業社に就職して秩父の方で
セメントを運んでいたよ。
そこでは3年～4年くらい務めたよ。
一日に多いときにはセメントを50t運んだよ。
そのあとこの近くで花を作っていたんだけど、
膝を壊して、しゃがんでやる仕事
できなくなったから米作りに移ったんだ。
今の田んぼは借りているんだ。近所の桑原さんに
腰を痛めて僕に米作りをやってくれないかと
頼まれて今は米作りをしているよ。
このコシヒカリは40年作ってきた。
米のほかには自然薯と里芋と
エシャロットを作っているよ。
自然薯は面白半分で作っているんだけど
今でもう6年ものになっているものも有るよ。
たくさん植えたんだけど
重機もないから堀るに掘り越せないから
売りに売れないんだよ

～米作りについて～

コシヒカリともち米を作っていて、
コシヒカリを約3反7畝作っているんだよ。今年はそのでケイ
酸カリを20kg使ったよ。あと、コシヒカリ専用の肥料を1
8kgくらい使ったかな。一番最初に雑草対策として
500mmの除草剤を使ったよ。
米を作っているとコナギと言う雑草が生えるから
「田ころがし」って言う雑草を取る機械があったんだけど
それが壊れたから自分で改造してコナギ
をとる道具を作ったんだ。道具は自分で
作れるものは作るよ。
コシヒカリはスズメが好きでネットを張
っておかないと
収量が一反部で2俵半か3俵くらいしか取れないよ。



～作業時間～

朝は5時30分～6時くらいから作業するけど
朝ごはんを食べにいったん家に戻るよ。
また10時くらいから作業を始めて昼休みをはさんで
2時頃からまた作業を始めて5時くらいまで作業をするよ。
でも夏の暑い日なんかはちよくちよく休憩をはさんでやっ
ているよ。だから1日の作業時間は大体7～8時間くらいかな。
暑いときは塩分補給を欠かさずやっているよ。
塩分とらないと倒れちゃうからね。

～米作りの苦悩～

最近では米の値段が下がって今は底辺あたりまで米の値段が下が
っているよ。だから無農薬栽培している人はキロ500円を最
低にして売っているよ。普通の米はキロ330円ぐらいでそれ
でも消費者が高いと言ってくるんだ。そういう人には売らない
よって言っても突っ張っても売れないから米の金額が上がらない
んだ。米が売れなくなってきているのは日本人が米をあまり食
べなくなってきているのも有るんだよ。昔の日本人は1人2俵
くらい米を食べていたのに今は1表弱しか食べなくなっている
からね。米を作っている人に言うこと話せばわかってくれるん
だけどそうじゃない人に話しても分かってもらえないからね。
小川町は米を作る人が少なくなってきているから水の管理がで
きなくなってきて2～3年前に水門の開け方が悪くて水の量が
減って雑草が生えやすくなってしまったんだ。だから重機で水
路を掘り返せるようにみんなで何か所か水路を拡張したんだ。

～子供時代～

当時の日本は終戦直前で物資が不足していて僕が小学生の頃は
紙のランドセルを使っていたよ。空襲警報が鳴ると学校がなくな
って家に帰れるから警報が鳴るのが楽しみだったよ。小学校
6年の時におふくろを亡くして少しいじけた時期もあったかな。

～これからの心配～

日本の農業がいじめられ続けると日本は沈没してしまう。この
国は借金も多額に抱えていて1人800万の借金があるといわ
れているからね。で、今中国が好景気だから中国人が日本の物
件を買ってあさっているからね。このままじゃ日本は中国に乗っ
取られてしまうよ。

多国籍企業が外国に工場を作っているけどそれは外国に技術が
流失しているってことも事実だよ。

～感想～

実際に行って、米作りの大変さを実感した 佐藤
水田を準備することはとても大変なことだと思いました。中田
農業をする環境が悪くなってきていると思った、牛塚
暑さや寒さの厳しい中自然と共存しながらの農作業は想像以上
に大変なことを実感しました。塚田

